令和８年度　第１回四街道市保健福祉審議会高齢者部会会議録

開催日時　令和８年８月１９日（水）　１４：３０～１５：５０

開催場所　四街道市役所本館２号棟１階会議室（１０１）

出席委員　澁谷委員　濵口委員　沖山委員　岩谷委員　平委員　髙瀬委員　國重委員

欠席委員　久保木委員　島田委員　田中委員

事務局　　髙橋福祉サービス部長　大手福祉サービス部副参事

後藤高齢者支援課長　行方高齢者支援課賦課給付係長

安齋高齢者支援課包括ケア係長　真田高齢者支援課賦課給付係主査

傍聴人　　１名

―――会議次第―――

１．開会
２．委員・職員紹介
３．福祉サービス部長挨拶
４．部会長選出
５．部会長挨拶
６．議題
　① 現行計画（第９期計画）の進捗評価について（報告）
　② 第 10 期計画策定に係るアンケートの結果について（報告）
　③ 第 10 期計画骨子案
　④ その他
７．閉会

―――会議概要―――

１．開会

（配布資料確認等）

２．委員・職員紹介

（省略）

３．福祉サービス部長挨拶

（省略）

４．部会長選出

互選により澁谷部会長を選出。濵口副部会長を部会長から指名。

５．部会長挨拶

（省略）

６．議題

① 現行計画（第９期計画）の進捗評価について（報告）

（後藤課長）　―　議題①についての説明　－

（澁谷部会長）　ふたつの資料について説明があった。まずは欠席者から事前に質問はあるか。

（後藤課長）　特に質問を受けていない。

（澁谷部会長）　委員の方で質問のある方は。

（岩谷委員）　１８頁の下段の高齢者の活動拠点づくりの推進が遅れているというところについて、拠点作りをやれる人はいるのか。

（後藤課長）　なかなか先頭に立つ方がいない現状もあるが、気軽に集まれる場というのは高齢者の拠点としては大切だと考えているので、引き続き周知をしながら、リーダーシップの取れる方を呼び掛けていきたいと考えている。今後、周知については強化をしていきたい。

（岩谷委員）　人を育てないとうまくいかないと考えるのなら、リーダーシップを持てるような研修会や勉強会などを検討していかないと難しい。更

に人は年々年をとっていくので、今できている人もできなくなる可能性がある。拠点づくりを進めていくことは大変であるが、長い目でやっていかざるを得ない。いろんな方策を考えていただきアイデアを出していただくとありがたい。それから２７頁、避難行動要支援者に対する災害時の支援体制の整備について、私は民生委員をしているので避難行動要支援者の名簿を配られるが、その名簿を自治会が持っていないところがたくさんある。それは自治会が名簿を持つためには誓約書を書いて、適切に管理をすることを誓約しないといけないが、自治会は１年毎に役員が変わるので、責任をもってやれないところは、サインできないから名簿がもらえない。誓約書を書いているところは、個別避難計画を作成するために自治会、近所の人、本人、民生委員等の関係者が集まって、検討会や打ち合わせができるが、名簿がない地域では、そういうことができない。優先順位が高い方から順次支援体制を整備していくといっても、関係していない自治会のところは放っておかれることにならざるを得ない。どのように解決していくのかというのが見えないので質問をしている。

（後藤課長）　かなり細かな実務的なことになるので詳細は答えられないが、いただいたことは課題のひとつだと思うので、今後の取組の中で推進できるよう、意見として受け止めたい。

（澁谷部会長）　以上でよろしいか。

（岩谷委員）　はい。

（澁谷部会長）　今の岩谷委員の方から２点、意見が出された。部会としてはそれを部会の意見として、この後の計画にあたっての検討事項ということで提案をしてよいか。他に質問があれば挙手をお願いしたい。

（澁谷部会長）　髙瀬委員、何かあれば。

（髙瀬委員）　初めて知ることばかりで、率直にお礼を申し上げる。こんなことをやってくれていたんだということが今回わかった。

（澁谷部会長）　他になければ進捗状況なので、以上にしたい。議題の②、第１０期の策定にかかるアンケートがいくつか行われた。事務局、説明を。

② 第10期計画策定に係るアンケートの結果について（報告）

（後藤課長）　―　議題②についての説明　－

（澁谷部会長）　これから計画を作っていく中で、この調査結果を元に方向を決めるための調査結果の説明だった。それでは４つの調査の報告があるので、まずは資料２－１　健康とくらしの調査結果について、質問、意見はあるか。

（澁谷部会長）　この調査結果報告書をどこかに公表するのか。

（後藤課長）　こちらは計画書と一緒に公表する。

（澁谷部会長）　公表の際、６頁のタイトル、うつ割合は変更した方が良いのではないか。これは国の指定か。タイトルが強烈的ではないか。

（後藤課長）　こちらの健康とくらしの調査は他自治体でも実施しているので。

（澁谷部会長）　それでも、四街道市が公表するときは名前を変えた方が良いと思う。検討は可能か。

（後藤課長）　公表する段階で変えられるかについて検討する。

（澁谷部会長）　同じく６頁の棒グラフの右のところに同規模保険者とあるが、四街道市と同規模の人口の自治体という理解でよいか。

（安齋係長）　人口が５万以上、１５万未満の保険者を同規模としている。

（澁谷部会長）　人口５万からこれくらいのところはこれを使うよう、国から示されているのか。

（安齋係長）　調査を実施している研究機関であるＪＡＧＥＳ機構の方で区分を、町とか村レベル、中規模レベル、大都市。分析の目安として研究機関の方で。国とかというわけではない。

（澁谷部会長）　公表の際、同規模保険者では普通の市民はわからない。同規模の人口の他の自治体等の注意書きをしてほしい。アンケート結果なので特に質問がなければ次に。資料２－２の在宅介護の調査結果はどうか。意見がなければ次に資料の２－３事業所アンケートについて質問はあるか。

（濵口副部会長）資料２－３の１２頁、問２４、今後の施設整備に向けての自由記載について、私は施設サービス事業所にいたが、一番上の「昨今の待機者減少もあり大規模の施設計画は必要性を感じれられない」、これは実際に施設で働いている方からのアンケート結果として非常に興味深い。これから施設整備について検討段階に入ると思うが、施設整備というと介護付有料と、それから特養と老健、これについての整備計画を進めていくと思うが、このような意見をどのように考えるか？

（後藤課長）　貴重な意見だと思うが、一方で待機者がいるという事実もある。そこのバランスを考えていかなければならない。今後施設計画を具体的にしていく中で、他市の状況とか待機者の経年変化というのを考えながら、作っていきたい。

（濵口副部会長）基本的には老健の場合には、定員に対して利用者が少ないというのと、特養については開設して満床になるまで大体８ヶ月から１年かかる。できればそういったことも含めて施設計画を進めていただきたい。もう１点、下から２つ目、「現在、既存施設は多床室を希望される相談者がいる。希望に少しでも近づけるため当法人では、市福祉計画で増床の予定があるのであれば、多床室の増床を前向きに検討する」、たしかに多床室と個室って介護サービスについての費用は、それほど変わらないけれども居住部分と食費分、そういったものは施設でいろいろできるので、多床室のところは抑えがちになる。そうすると総経費がだいぶ減る。ただここで問題なのは国の方は現在、ユニット型の個室を推進していて、多床室はおそらく困難だと思う。そうするとここで書かれている要望について、この方への答えはどのような回答になるのか。

（後藤課長）　個室で進めるようになっているので、現段階では難しい。

（濵口副部会長）回答のとおりだと思う。多床室の希望が多くても叶えることができない。その辺が厳しい。

（岩谷委員）　個室じゃなくて多床室を希望する理由は何か。

（濵口副部会長）食費とか施設に対する利用費については、多床室のある特養に比べてユニット型の特養は高い。全体的に多床室のある特養の費用はいくらか安くなる。

（岩谷委員）　そうすると自己負担が多くなることが原因で、多床室を希望する方がいるということか。

（後藤課長）　我々が施設の方とお会いした際に、多床室のある施設の方がニーズがあるという意見はいただいたことがある。

（岩谷委員）　施設を利用している方々には聞いてはいないのか。多床室がいいとか悪いとか、その理由は何かというようなことを。

（濵口副部会長）多床室のある特養と、ユニット個室１００床あるところの２箇所で働いたことがあるが、多床室の方へのアンケートと、個室ユニットを使っている方のアンケートを行っても、それぞれ目的が違うので整合することはできない。多床室の場合には経済的に、あるいは国の制度を使っている方が多く利用している。個室ユニットの方は、負担割合が２割３割の方もいるので、相互にアンケートをとっても、比較対象にできないし、資料になりえないと思う。

（岩谷委員）　国が個室ユニットを増やす政策をとっているのだとすると、それは金持ち優遇のための高齢者対策のようになっているのか。

（濵口副部会長）個室ユニットの中で、それぞれ食事がどんなものか、どんなサービスがあるのか、あるいはサービス提供者がどういった資格があるのか、そういったところから選択していくので、多床室を希望する方は基本的にはごく僅か。

（岩谷委員）　そうすると先ほどの事業者の多床室を希望する方もいるという意見は本当に少ないということで理解した。けれども一応そういう人もいるからこの方は自由記載に回答したということか。

（澁谷部会長）　総数は少ないが、困っている方は困っている。そういう理解でよいのではないか。

（岩谷委員）　了解した。

（澁谷部会長）　関連して１１頁に、待機者の最大が１８カ月とあるのは特養か。分析は施設の種別によっては変える必要があるだろうし、平均が４カ月なので、是非施設の種別に応じた分析を。

（後藤課長）　要因というか分析はしていきたい。

（澁谷部会長）　他になければ次に今回新たに認知症の推進計画が始まるということで、何か質問、意見はあるか。

（岩谷委員）　認知症とは関係ない家族とか、そういう人達に認知症をどこまで理解しているというような調査はしなくてよいのか。認知症って聞いたら何もできない人のように思う人が沢山いる気がするので。だけど認知症であってもできることはできるし、不得意なところもあるけれど、できるところを活かして理解していけばというようなことを認知症のことを勉強する時に言われるので。そういう意味で市民だとか、まだ認知症になる前の人達にもどこまで理解しているかわかるような調査もした上で推進計画を進めた方が市民全体にとってはいい計画になるのではないかと思う。

（後藤課長）　今回は介護の計画ということで、高齢者とか、ある程度知識がある方に絞ってやらざるを得ないところがあった。いろいろな市民の方については、今後他の計画の意見の聴取の際に一緒に入れられないか考えたい。

（澁谷部会長）　地域福祉計画とかあたりに、あったような記憶がある。他の計画で考えてみるとか。

（安齋係長）　全体的に広く聞くということはしていないが、在宅介護実態調査と健康とくらしの調査の中で、意識調査に近いことは、いくつか項目を入れたので少しそちらも参考にしながら、また普及啓発等を考えていきたい。

（澁谷部会長）　他になければ、以上で議題の②は終了する。それでは議題の③計画の骨子案について説明をお願いする。

③ 第10期計画骨子案

（後藤課長）　―　議題③についての説明　－

（澁谷部会長）　骨子について、何か質問はあるか。

（濵口副部会長）２枚目の施策体系案の中で一番下の囲みの破線の中で、修正の①は基本目標③の４番目、地域の見守り・災害対策の充実について、読み上げると、「大規模災害等のリスクを見据え、介護施設等のＢＣＰ策定支援や防災・減災を推進するため」となっている。そこで確認だが、昨年の４月１日に、ＢＣＰは介護保険サービス事業者に策定が義務付けられている。ＢＣＰの策定、業務継続計画を策定して、その後いろんな災害がこれからも出てくるであろうから、その都度アップデートしていくために支援をしていく。原則として既存のサービス事業者は１００％策定しているけれども、今後のいろんな状況を見据えて、その都度行政がサービスを継続していくために策定の支援をしていくということでよいか。

（後藤課長）　ご質問のとおり、策定後も継続的に修正を繰り返すことがあるので、そちらの支援を行っていく。ただ、わかりにくいので修正したい。

（濵口副部会長）了解した。

（澁谷部会長）　他には。

（沖山委員）　最後の資料だが、初めてこういうのを見たが、どういうふうに変わったかというのが私にもわかりやすい表だと思う。ただ市民の目線からすると、今まで説明があった実態調査、その結果から見えてきた課題によってこう訂正したんだっていうような内容が少しでも書

かれていると説得力がある変更になると思う。

（澁谷部会長）　感想ということでよいか。特に１点目については１枚目の第２部の３のところ、タイトルが「アンケート調査結果からみた現状」ということで、しっかりとアンケート結果を市民の方に見てもらって、それに基づいて計画を策定しているということを数年前から入れるようにしている。他には。

（岩谷委員）　今のＢＣＰ計画について、事業所には聞いていないのか。質問の中で策定しているとか、あるいはどういうことでどう運営しているとか、あるいはアップデートしているということは事業所アンケートの中で質問項目にはないのか。

（後藤課長）　アンケートの中で聞いてはいないが、事業者に払われる給付費が低くなってしまうので、全ての事業所で作っている。

（岩谷委員）　確認しているのか。

（後藤課長）　確認している。今後これを見直し修正していくのかについては、確認はとっていないが、今回の豪雨もあり、今後修正というのは、必ず必要になってくるものと思われるので、そこの支援は必要だと考える。

（岩谷委員）　介護保険の関係で各事業所に行政からの支援、要するに経費的な支援をする際に、こういうことがきちんとできているかを確認する条件のようなものはあるのか。今この話を聞いていて、確認しておいた方がいいかなと思って質問している。

（澁谷部会長）　今の話は国保連の業務のようだが。

（濵口副部会長）事業者から言いますと、既に業務継続計画については２０２５年の４月１日に策定しているのが義務であり、それは末尾が決められていた。これができていないと例えば国等からの事業の支援金だとか貸付金だとか、そういったことが受けられないというデメリットがある。なのでもし不届き者がいるとするとほんのわずかなほんの一握り、一握りもないくらいだと思う。例えばある行政機関で社会福祉法人施設の中に調査が入ってそれが見つかってしまうと、おそらく２０２５年の４月１日まで遡って減算になり傾いてしまうので、そこまでの心配は不要かと思う。

（澁谷部会長）　岩谷委員の質問はそれも含めながらいろんな項目をということ。

（岩谷委員）　そのとおり。

（澁谷部会長）　それでは、要望ということでよいか。

（岩谷委員）　はい。結構です。

（澁谷部会長）　他になければ議題③を終了する。議題④その他で、事務局、連絡事項以外にあるか。

（後藤課長）　ない。

（澁谷部会長）　では委員の方から何かあるか。意見、要望等があれば。國重委員せっかくなので認知症のグループホームで今日の話も含めながらでもいいし、現状でもいいので一言あれば。

（國重委員）　私は認知症の方しか入れない施設なので、今感じているのは入居を希望する方がすごく高齢になってきてるなっていうところで、前までは８０代の方の相談が多かったが、今だと大体９０を超えて相談する方がすごく多くなってきてるので、ご家族へのサポートみたいなものがあるといいと思う。

（澁谷部会長）　このあと示される計画の案の中に文言や項目があると思うので、是非チェックをお願いする。他になければ骨子案についてはこれを元に事務局の方で進めるように。事務局から連絡等お願いする。

④ その他

（後藤課長）　次回の高齢者部会については、１１月下旬頃を予定している。議題については計画素案等の審議を予定している。あと本日診療ということで途中で離席された平委員から１３時の開催という要望があったので意向に沿いたいと考えている。１３時だと都合が悪いとか。（大丈夫との複数の声あり）　では、次回は１３時という形で進めるようにしたい。

（澁谷部会長）　以上で本日の議題は全て終了した。円滑な運営にご協力をいただき感謝する。本日の意見について、事務局の方でこの後、案という形で検討していただきたい。それでは最後進行を事務局にお返しする。

８．閉会

以　上